

独自のナノめっき技術で未来を拓き、日本のものづくりを支えるめっき業界のトップランナー



清川メッキ工業株式会社代表取締役会長の清川 忠氏

清川メッキ工業株式会社 【福井支部】

開発力が売り物のめっき加工会社

従来の「めっき」の常識を覆し、次の世代に役立った新たなめっき技術を開発してきた会社が福井市にある。独自のナノめっき技術によって製品の小型化を支えながら地球環境を守り、また月間数十億個の部品を加工しながらも不良品はほぼゼロという品質管理を実現する清川メッキ工業株式会社だ。

「昨年、創業60周年を迎えましたが、当社の「めっき」加工は誰もやったことのない日本初、世界初が多いのも特長の一つです」と胸を張るのは、清川メッキ工業の創業者であり、代表取締役会長の清川忠氏。

地元、福井市の繊維会社に勤めていた当時20歳の清川氏が「めっき」を選んだのは、電話帳の職業欄で一番少ない職業を調べ、めっき業に着目したことがきっかけだったという。そして、福井県や大阪府のメッキ会社で経験を積み、1963年に「清川メッキ工業所」として福井市で創業した。だが後発のめっき加工事業者が仕事を受注するのは容易ではなく、最初の仕事は織機のさびた部品を研磨してか



粉体めっきは、目に見えないほどの小さな粉体(微粒子)にめっきを行う技術

らのクロームめっきだった。その後、オートバイのリムの光沢アルマイト処理(表面処理)を手掛けるようになって事業も軌道に乗り出した。そして電子部品のチップが登場し始めた1970年代半ばに「どこに頼んでも、無理だと断られた」というある部品メーカーの依頼を引き受けたことから電子部品を覆うメッキ加工で急成長し、現在の事業展開へとつながる転機となった。

「企業理念は「自由なる創意の結果が、大いなる未来を拓く」ですが、誰も手掛けていない開発案件に挑むことこそが当社の存在価値ではないかと思えます」と清川氏は話す。

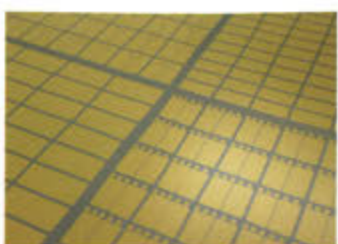
また、創業50周年を目前にした2010年に、仕事の50%以上の新製品を息子たちや社員らで立ち上げられるようになったことから清川氏は、長男の肇氏に社長の座を譲り会長へ。同時に次男の卓二氏は専務に、三男の

忠幸氏は常務にそれぞれ就任し、兄弟3人による経営体制への移行を果たした。現在も清川氏が貫いてきた「できないとは言わない」のモットーを継ぎ、電子部品の小型・軽量化の流れの中で、肉眼では見えないナノ単位のメッキ技術を次々と生み出し、通信、医療、宇宙といった最先端技術分野でも存在感を放っている。

営業部門は置かず、展示会やホームページでニーズを獲得

清川メッキ工業のもう一つの特長に「営業部門を持たない」という点がある。清川氏は「30年以上前から営業の人材はいない」と話す。主に展示会やホームページで自社の新技術をアピールすることで案件につながっているが、これも「できないとは言わない」との考えのもと、新規事業へ積極参入していた清川氏のスタンスが根底にあるといえるだろう。

「めっき」というと24金コーティングなど美観を目的とした「装飾めっき」を想像しがちだが、めっき被膜そのものの特性を利用して製品に機能を付与する「機能めっき」の技術こそがわれわれの生活を支えている。そのサイズも年々小さく進化している。



20年間のノウハウによるSi、SiC、GaNなどパワーデバイスの実装に欠かせない無電解めっき技術

ウエハ内ビア埋め込みめっき技術は、周波数特性の向上、高密度小型化、省電力化の目的で使用され、5G通信での用途にも検討されている



12inchウエハ対応自動めっきライン。半導体ウエハ製品へのUBMめっき生産・試作に対応

「例えば、人間の髪の毛の太さは50〜100μmですが、当社では5μmの粉体一つ一つに均一に行うことができます。こうした他社では断るようできないかどうか分からない。を実現するのがイノベーションです」

また、かつての「めっき」はキツイ、汚い・危険の3K仕事というイメージで、若い人が来ないし、入ってもすぐに辞めてしまうことも多々あった。清川メッキ工業でも離職率が跳ね上がった時期があったが、独自の管理手法を導入して人材育成に注力した結果、現在の離職率はゼロとは言えないが少ない。

「社員が仕事に誇りを感じられる場を作りたくて1997年から始めた『めっき教室』では、若手社員が講師となつて、小学生に「めっきとは何か」を説明しています。年間約10回実施しているの

で若手社員にとっても重要な学びとなります」と清川氏。

さらに「常日ごろから実践していることが結果としてSDGsになる」という考えから17あるすべての目標を実践中。女性社員が3割を占め、管理職での登用も進む。そのほかに

も「めっき」とは縁遠いと思える関連会社の野菜工場にも、社員に寄り添う働き方を考える同社の思いと、各種分析や検査技術などのめっき加工から得た経験が生かされており、社員が幸せに長く働くことのできる会社を目指している。

めっきの技術自体は、実は古代からあった技術であり、長い時を経た現代に至っても進化し続ける技術でもある。「できないとは言わない」というスタイルを継ぎ、さまざまな業界のニーズに応えていく姿勢を見せる清川メッキ工業。加工を受託するビジネスモデルであるため、最終製品で顧客に訴求こそできないが、60年間培ってきた技術を進歩させ、日本のものづくりをこれからも支え続けていくだろう。



清川メッキ工業株式会社

〒918-8236 福井県福井市和田中1-414
TEL: 0776-23-2912
代表者: 代表取締役会長 清川 忠
代表取締役社長 清川 肇
設立: 1963年3月(1968年11月株式会社設立)
資本金: 4,000万円
社員数: 334人(内女性107人) ※2023年9月1日現在
事業内容: 電子部品、マグネット、半導体ウエハをはじめとする各種材料への電解めっきおよび無電解めっき加工